2015 年 8 月

腹腔鏡下仙骨膣固定術（ＬＳＣ）：女性の骨盤臓器脱に対する手術

最近、子宮脱の患者さんに腹腔鏡下仙骨膣固定術を行いました。この手術は、昨年保険診療として認められたばかりで、行っている病院は全国的にもまだ多くはありません。私が赴任前に師事した本手術のエキスパートの先生に、はまゆう病院まで来ていただきご指導・お手伝い頂きました。患者さんの経過は良好で、長い間悩まれていた症状はなくなり、併発していた尿漏れも軽快しました。

子宮脱とは子宮が膣から脱出する病気です。押し込むと元に戻る場合もありますが、立位になったり腹圧がかかったりするとまた脱出してきて、股の間に何かが挟まった感じになります。不快感以外に排尿障害を伴うこともあります。子宮だけでなく、膀胱の後ろ側が膣に落ち込んで膣から脱出する膀胱脱（膀胱膣瘤）や直腸の前側が膣から脱出する直腸瘤もあります。これら、子宮脱、膀胱脱、直腸瘤を総称して骨盤臓器脱（pelvic organ prolapse: POP）と言います。「ポップ」と呼ぶ医師もいます。

原因は、加齢により骨盤の底の筋肉が緩んで来ることによります。保存的治療として、薬の内服、骨盤底筋を鍛える体操、ペッサリーの使用などがあります。肥満傾向の方は、減量も良いでしょう。しかし、根本的に治すためには、重症度にもよりますが手術が必要です。

以前より、経膣的にメッシュという網状の人工物を入れ、骨盤臓器が落ち込んでこないようにする、経膣的骨盤底筋再建手術（TVM 手術）が行われてきました。日本ではあまり問題になりませんでしたが、欧米ではこの TVM 手術でのメッシュ関連の合併症が問題となったため TVM 手術はあまり行われなくなってきました。

それに代わる低侵襲手術（体に優しい手術）として、今回当院でも行った腹腔鏡下仙骨膣固定術（ＬＳＣ）が、今後行われていくものと思われます。手術手技としてはやや難しいですが、良い手術だと思います。

引き続き当院泌尿器科でも、骨盤臓器脱でお悩みの方がおられましたら、積極的に対応させていただきたいと考えております。

（川嶋秀紀）